

近代の文化遺産の保存修復に関する研究(修 06-06-1/5)

目 的

近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物など従来の文化財とは、規模、材質、製造方法などに大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型構造物の劣化機構の解明とその修復方法の立案、航空機、船舶、鉄道車両などの保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

概 要

今年度は、近代化遺産の保存活用とともに利活用に関する手法や問題点を主なテーマとして研究を行った。ドイツから、博物館の保存担当官、近代化遺産の保存計画立案者や修復技術者などを招いて、大阪市において、関西圏の研究者の参加も得て研究会を行い、各研究者の視点から近代化遺産の利活用に関する検討会を行った。さらに、ドイツ技術博物館においては、合成樹脂の経年劣化に関する共同研究を行っている。また、屋外展示されている鉄道車両や航空機などの金属を主体とする文化財の防錆対策のために、各種仕様のサンプルを作成し、小樽交通記念館、船の科学館、かかみがはら航空宇宙博物館、大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地での曝露実験を行っている。これらの地点では、試料の受けた紫外線量をはじめ、温度、湿度などの測定も行い、これらの塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。屋外展示航空機の環境測定も継続している。また、設計図などに多く用いられる青焼き図面の修復方法の実験も引き続き実施した。

・調査施設：生野銀山、兵庫県公館、三井鉱山宮原坑跡、三井鉱山万田坑跡、富岡製紙場、旧下野煉瓦製造、トヨタ産業技術記念館、柵原ふれあい鉱山公園、JR 四国多度津工場、琴平電鉄仏生山工場、瀬戸大橋記念公園、所沢航空発祥記念館、産業技術博物館、横須賀ドライドック、航空自衛隊入間基地、小樽交通記念館、交通博物館、交通科学博物館、船の科学館、碓氷鉄道文化むら、加悦 SL 広場、梅小路蒸気機関車館、大樹町多目的航空公園、西都原考古博物館、海上自衛隊鹿屋航空基地、知覧特攻記念館、万世平和記念館、愛媛県立科学博物館、別子銅山記念館、東京駅、日本銀行本店、博物館明治村、美濃和紙の里会館、天文台

研究会の開催件数 2 件

- ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究会
第 19 回「鉄道文化財の利活用」 交通科学博物館 06.10.26
第 20 回「路面電車の運行と文化財の保存」 東京文化財研究所 07.3.10

学会、研究会等での発表 2 件

- ・中山俊介「鉄道文化財の利活用」 第 19 回研究会「鉄道文化財の利活用」 交通科学博物館 06.10.26
- ・中山俊介「路面電車の運行と文化財の保存」 第 20 回研究会「路面電車の運行と文化財の保存」 東京文化財研究所 07.3.10

報告書 2 件

- ・『呉市における近代化遺産の保存修復と活用』 東京文化財研究所 48p 07.3
- ・*Conservation of Large Scale Structures*, National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo, 138p 07.3

研究組織

中山俊介、川野邊渉、森井順之、高橋真実子、高尾曜（以上、修復技術部）、朽津信明（文化遺産国際協力センター）、横山晋太郎、長島宏行（以上、客員研究員）